

モモ樹の根群管理による生産力増強に関する研究

(第 1 報)早生モモの収穫直後全面耕耘断根による生産力増強

若林義則・末澤克彦・大熊正寛・土居新一

早生モモを中心とした生産力増強と,果実の品質向上を図るための根群管理技術,なかでも,断根処理が生育および果実品質,収量に及ぼす影響を調査した。

1. 根系に対する断根の影響をみると,時期により異なり,7 月断根は直ちに再生根が発生するが,10 月断根では年内の発根は僅少であった。

気温の低い 2~3 月に断根すると,発根時期は約 1 か月程度遅れた。

2. 断根程度は,強くなるほど地上部の生育が劣り,短果枝と中果枝の占める割合が多くなった。

新梢・葉の乾物重と養分吸収量は 30%断根までは低下しない傾向がみられたことから,単年度で 30%程度までの断根であれば,樹体の衰弱にはつながらないものと思われる。

3. 根の太さ別再生能力は,直径 11~16 mmの太さの根であれば,もとの量まで回復可能であった。

4. 早生モモの収穫直後に,全面耕耘による断根処理を行うことによって,地上部の徒長繁茂を防いで樹冠内照度を向上させることができ,これが充実した結果枝の確保につながり,翌年産果実の品質向上と収量増加をもたらしたものと考えられた。